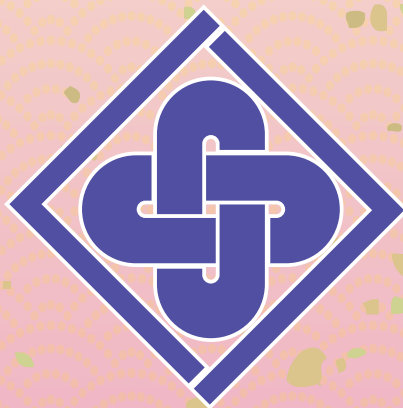


千葉県指定

# 伝統的工芸品 一覽

Traditional Crafts of Chiba Prefecture, Japan

房総に息づく手づくりの技



## はじめに

千葉県は、三方を海に囲まれた房総半島に位置し、気候温暖で自然豊かな土地であるとともに、400年もの間、我が国の政治や文化の中心となっている江戸、現在の東京都に近接していることなどから、人や物、文化などの様々な交流が盛んに行われてきたところです。

このような千葉県の風土と歴史の中で生まれ、育まれ、伝統的な技術・技法が受け継がれてきた伝統的工芸品には、私たちに潤いと安らぎを与えてくれるものが数多くあります。

県では、伝統的工芸品産業のより一層の発展を図るため、昭和59年度から、優れた工芸品を県指定伝統的工芸品として指定しています。

ふるさと千葉に息づくこれらの伝統的工芸品について、県民の皆様にご認識いただき、郷土が誇りうる工芸品となるようご支援・ご協力をお願いします。

## 千葉県指定伝統的工芸品の制度について

県は、県内の伝統的工芸品を地場産業として育成するため、昭和59年度に県指定制度を発足させて、県内に息づく伝統的工芸品産業の振興に取り組んでいます。

下記の指定基準を満たした工芸品について、「千葉県伝統工芸品産業振興協議会」の意見を聴いて、知事が千葉県指定伝統的工芸品に指定しています。

- 1 製造過程の主要部分が手工的であること。
- 2 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- 3 主たる原材料が、伝統的に使用されてきたものであること。
- 4 一定の期間、おおむね十年以上、県内で製造されているものであること。

なお、「工芸品」とは、「熟練した技を必要とする工作物であって、芸術的要素を備えるもの」であり、主として日常生活の用に供されるものと解釈されています。



千葉県指定  
伝統的工芸品

### 千葉県指定伝統的工芸品の表示ラベル

このマークがついている製品は、千葉県知事が指定した伝統的工芸品です。

県指定を受けると、指定の証として、表示ラベルを貼付することができます。

# ■ 千葉県指定伝統的工芸品製作者一覧 ■

(指定番号順)

指定番号	指定年度	製作者名	指定品名	市町村	連絡先	掲費
6	昭和59	角田 光弘	萬祝半天	鴨川市	04(7092)0794	2
34	昭和59	田中 重己	刷毛	習志野市	047(472)3431	10
35	昭和59	越川 勝之	下総袖垣	多古町	0479(75)1335	9
47	昭和60	中墓 實	行徳神輿	市川市	047(357)2061	7
49	昭和60	矢部 宏	本納絵馬	茂原市	0475(34)3108	8
50	昭和60	矢吹 覚	べっ甲細工	松戸市	047(364)9606	11
54	昭和60	堀江 深一	籐製品	銚子市	0479(23)0806	9
57	昭和61	中澤 英高	友禅染	松戸市	047(367)9273	2
59	昭和61	芳澤 幸二	印旛竹細工	栄 町	0476(95)2531	5
63	昭和61	長谷川 照昭	上総獅子頭	山武市	0475(58)1428	8
65	昭和61	小澤 弘	へら浮子	旭 市	0479(63)9077	11
68	昭和61	加瀬 文夫	籐製品	銚子市	0479(22)5477	9
88	昭和63	千葉 惣次	芝原人形	長南町	0475(46)0850	7
91	平成元	鈴木 保雄	下総染小紋	船橋市	047(422)6284	2
93	平成2	小澤 克己	萬祝式大漁旗	銚子市	0479(22)2783	2
97	平成3	石塚 洋一郎	房総打刃物	成田市	0476(26)8061	5
101	平成3	穂積 実	江戸つまみかんざし	市川市	047(337)4506	8
103	平成4	北島 和男	下総鉄	松戸市	047(362)7858	5
104	平成4	岡村 洋一	節句人形	千葉市	043(232)2290	6
105	平成5	太田 衛	木地玩具	南房総市	0470(20)4082	4
106	平成5	仙田 秀一	ビーズ細工	柏 市	04(7143)4181	10
107	平成5	椎名 正夫	江戸神輿	我孫子市	04(7182)0333	7
109	平成5	倉持 進	上総木彫	九十九里町	0475(76)8774	4
110	平成5	江澤 利春	日本刀	南房総市	0470(36)3838	6
111	平成6	篠原 清治	手描友禅	松戸市	047(364)9769	2
113	平成6	松本 通男	佐原太鼓	香取市	0478(52)2787	7
115	平成7	古島 一良	籐家具	千葉市	043(241)3031	9
121	平成8	荒川 啓	象牙彫	松戸市	047(362)7124	9
124	平成8	久田 美智子	下総組紐	佐倉市	043(462)0475	3
130	平成9	宇梶 國雄	下総鉄	松戸市	047(341)4057	5
132	平成9	常世田 眞吉郎	銚子ちぢみ	銚子市	0479(22)2103	2
133	平成9	鈴木 幸祐	鴨川萬祝染	鴨川市	04(7092)1531	2
134	平成9	粕谷 雄治	房州鋸	鴨川市	04(7096)0349	6
135	平成9	太田 美津江	房州うちわ	南房総市	0470(33)2792	11
142	平成11	東 新治	佐原太鼓	香取市	0478(52)3991	7
147	平成13	森谷 糸	とんぼ玉	千葉市	043(237)7799	10
148	平成13	福尾 毅	南総尺八	市原市	0436(22)5141	7
149	平成14	小澤 登	上総角風	市原市	0436(22)4903	7
150	平成14	稲坂 徳太郎	佐倉鍛造刃物	酒々井町	043(496)1601	5
151	平成15	野崎 吉之	下総鉄	松戸市	047(362)3457	5
154	平成16	村杉 達雄	長生楊枝	睦沢町	0475(44)0304	3
156	平成16	金谷 司仁	角風・袖風	市原市	0436(61)0131	6

指定番号	指定年度	製作者名	指定品名	市町村	連絡先	掲費
158	平成17	松田 周二	日本刀(美術刀剣)	千葉市	043(228)3044	6
159	平成18	八間川 義人	関東牛刀	柏 市	04(7193)0271	5
160	平成18	内山 春雄	楽堂象嵌(木象嵌)	我孫子市	04(7187)6605	4
161	平成19	都築 茂幸	木撥	流山市	04(7158)2352	7
162	平成19	藪崎 保治	木彫刻	市川市	047(357)5697	4
163	平成19	森 隆夫	雨城楊枝	君津市	090(5407)6999	3
164	平成19	中山 幸雄	畑沢楊枝	木更津市	0438(37)4855	3
165	平成19	福山 一郎	打上げ花火	君津市	0439(55)7033	8
166	平成20	池上 豊	乗馬鞍	富里市	0476(93)3127	9
167	平成20	石塚 祥二郎	成田打刃物	成田市	0476(26)8061	5
169	平成22	金谷 政司	角風・袖風	市原市	0436(61)0131	6
170	平成22	小峯 穰二	桶	野田市	04(7196)0132	4
171	平成22	駒野 幸子	とんぼ玉	千葉市	080(3534)9240	10
172	平成22	田島 義弘	屏風	市川市	047(357)6094	10
173	平成23	田中 宏平	刷毛	習志野市	047(472)3431	10
174	平成23	松澤 武人	節句人形	鎌ヶ谷市	047(443)4618	6
175	平成24	清水 吉郎	ちば楊枝	千葉市	043(261)3844	3
176	平成24	高橋 章雄	梅ヶ瀬楊枝	市原市	0436(62)1644	3
177	平成24	石井 登貴子	佐原ラフィア	香取市	0478(54)5641	9
178	平成25	浮原 忍	ちば黒文字・屏木扇	千葉市	043(228)2120	3
179	平成25	中村 航太	江戸組紐	松戸市	047(362)2667	3
180	平成25	山田 吉徳	節句人形(雛人形)	流山市	04(7158)4125	6
181	平成27	伊藤 知子	手描友禅	市川市	090(7013)8780	2
182	平成29	最首 善雄	建具組子	いすみ市	0470(62)1582	4
183	平成29	中墓 洋	行徳神輿	市川市	047(357)2061	8
184	平成29	高城 勇	打上げ花火	柏 市	04(7191)3376	8
185	平成29	穂積 裕	江戸つまみかんざし	市川市	047(337)4506	8
186	平成29	藤井 彩野	江戸つまみかんざし	松戸市	090(9142)1227	8
187	平成30	仙田 和雅	ビーズ細工	柏 市	04(7143)4181	10
188	平成30	加瀬 稔	籐製品	銚子市	0479(22)5477	10
189	令和元	宮澤 雅樹	萬祝式大漁旗	銚子市	0479(22)1135	2
190	令和元	穂積 裕子	江戸つまみかんざし	市川市	090(8852)3946	8
191	令和元	岩村 亮	市松人形	市川市	080(4115)7674	6
193	令和2	森谷 深冬	とんぼ玉	千葉市	043(237)7799	10
194	令和2	鈴木 広昭	大森尺八	勝浦市	0470(76)2659	7
195	令和2	井口 峰幸	大多喜焼	大多喜町	0470(84)0664	9
196	令和3	山本 富彦	南総竹細工	市原市	090(3210)4574	5
197	令和4	三浦 勝巳	日本産権田碁盤・将棋盤	山武市	0475(89)0008	4
198	令和4	大谷 智明	指物家具	長南町	0475(47)3530	4
199	令和4	福田 隆太	江戸組紐	市川市	03(3664)2031	3
200	令和5	石原 利晃	つまみかんざし	九十九里町	0475(76)8212	9
201	令和5	川島 康文	木彫(仏像彫刻)	いすみ市	080(6318)4426	4

織物 Woven Patterns

指定番号 132  
(平成9年度指定)

ちょうし  
**銚子ちぢみ** CHŌSHI-CHIJIIMI  
とこよだ しんいちろう  
常世田 眞一郎 (銚子市)



銚子ちぢみは、江戸時代に漁師の婦女子が出漁の安泰と豊漁を祈って、製造したのが始まりです。

明治時代末期に中断し、戦後、常世田さんの祖父によって再興され、昭和29年に県の無形文化財に指定されました。父の安弘さんが昭和59年度に伝統的工芸品の県指定を受け、三代にわたって伝統を守り続けています。

連絡先：0479 (22) 2103

製作体験あり

染色品 Dyed Patterns

指定番号 133  
(平成9年度指定)

かもがわ まいはいぞめ  
**鴨川萬祝染** KAMOGAWA-MAIWAIZOME  
すずき こうすけ  
鈴木 幸祐 (鴨川市)



萬祝は、もともと豊漁に際して船主が褒賞として漁師に贈る晴れ着であり、豊漁祈願などの際に帯を締めずに着物の上から羽織るもので、縁起のいい図柄が極彩色で染め抜かれています。

鈴木さんは、「萬祝長着」で県の指定を受けた父の栄二さんの技術を受け継ぎながら、暖簾など染色技術を現代風に生かしています。

連絡先：04 (7092) 1531

製作体験あり

染色品 Dyed Patterns

指定番号 6  
(昭和59年度指定)

まいはいはんてん  
**萬祝半天** MAIWAIHANTEN  
つのだ みつひろ  
角田 光弘 (鴨川市)



萬祝半天は、1923年の頃まで主に外房地域で盛んに作られていました。しかし、今では染屋も少なくなりました。柄は「三番雙」「恵比寿大黒」等約30種類ほどあります。全て手指し加工で、最後に顔や手足を筆入れして仕上げます。

角田さんは、江戸時代から続く染色技法を継承し、25歳から萬祝半天を製作しています。

連絡先：04 (7092) 0794

染色品 Dyed Patterns

指定番号 189  
(令和元年度指定)

まいはいしき たいりょうばた  
**萬祝式大漁旗** MAIWAISHIKI-TAIRYOBATA  
みやざわ まさき  
宮澤 雅樹 (銚子市)



萬祝式大漁旗は、江戸時代に漁師の間で広まった豊漁を祝う晴着「萬祝着」の図柄を船旗に描いたものです。

宮澤さんは、昭和60年県指定を受けた父の紀年さんの下で修業し、萬祝の製法を受け継ぎ、世界で一枚の祝旗を手作りで製作。現代風にアレンジした作品は、銚子土産として好評です。

連絡先：0479 (22) 1135

染色品 Dyed Patterns

指定番号 93  
(平成2年度指定)

まいはいしき たいりょうばた  
**萬祝式大漁旗** MAIWAISHIKI-TAIRYOBATA  
おざわ かつみ  
小澤 克己 (銚子市)



萬祝式大漁旗は、江戸時代から続く豊漁を祝う晴着「萬祝着」の染色技術を継承し、綿布にもち米の糊で文字や絵を描き染色したもので、漁船の進水式、結婚などの祝用の旗として製作されています。

小澤さんは、15歳でこの道に進み、父の忠一さんの下で、腕を磨いてきました。

連絡先：0479 (22) 2783

染色品 Dyed Patterns

指定番号 91  
(平成元年度指定)

しもうさそめ こもん  
**下総染小紋** SHIMŌSA-SOME-KOMON  
すずき やすお  
鈴木 保雄 (船橋市)



小紋染は、型紙を使用し、米糊を用いる染色技法です。江戸時代の武士の礼装であった袴から町人の小袖に至るまで広く愛好されて現在に至っています。

鈴木さんは、父の富雄さんの下で十代の頃より修行を重ね、全工程を昔ながらの技法で製作しています。古くからの型紙の復彫、染めにも取り組んでいます。

連絡先：047 (422) 6284

染色品 Dyed Patterns

指定番号 181  
(平成27年度指定)

てがきゆうぜん  
**手描友禅** TEGAKI-YŪZEN  
いとう ともこ  
伊藤 知子 (市川市)



友禅染の歴史は江戸時代の中期に始まり、今日でも日本の染色技法の中核を担っています。

伊藤さんは、京友禅や加賀友禅と並び三大友禅と称される東京手描友禅の技法を継承しています。伝統を守りつつも新たな作品づくりにも取り組んでおり、次の世代にも引き継いでいきたいと意欲的に活動しています。

連絡先：090 (7013) 8780

染色品 Dyed Patterns

指定番号 111  
(平成6年度指定)

てがきゆうぜん  
**手描友禅** TEGAKI-YŪZEN  
しのはら きよはる  
篠原 清治 (松戸市)



友禅染の歴史は江戸時代の中期に始まり、今日でも日本の染色技法の中核を担っています。

篠原さんは、京友禅や加賀友禅と並び三大友禅と称される東京手描友禅の技法を継承しています。松戸市に工房を構えて40年、女性の個々に合った個性豊かな美しい着物を創作しています。

連絡先：047 (364) 9769

製作体験あり

染色品 Dyed Patterns

指定番号 57  
(昭和61年度指定)

ゆうぜんぞめ  
**友禅染** YŪZEN-ZOME  
なかざわ ひでたか  
中澤 英高 (松戸市)



友禅染の歴史は江戸時代の中期に始まり、今日でも日本の染色技法の中核を担っています。

中澤さんは、伝統ある友禅染技法の伝承を主な目的としている文化庁及び日本工芸会等が主催する日本伝統工芸展などを中心に作品を発表し、日本工芸会正会員として創作活動をしています。

連絡先：047 (367) 9273

製作体験あり

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 199  
(令和4年度指定)

えどくみひも  
**江戸組紐** EDO-KUMIHIMO  
ふくだ りゅうた  
福田 隆太 (市川市)



組紐は、奈良時代に仏教と共に渡来し、我が国独特の技術の発展を経て、日本独自の組紐、優美な紐がつくられるようになりました。

福田さんは、現代の名工として認定を受けた実父の隆さんの下で修業を重ね、伝統工芸技術を極めることに留まらず、現代に合った組紐の形を生み出すことにも積極的に挑戦しています。

連絡先：03 (3664) 2031

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 179  
(平成25年度指定)

えどくみひも  
**江戸組紐** EDO-KUMIHIMO  
なかむら こうた  
中村 航太 (松戸市)



江戸組紐は、江戸時代の武家社会で必要とされた組紐と、江戸町民文化で磨かれた組紐の二つを源流に持っています。

中村さんは、松戸市内で約130年の歴史を持つ組紐製作工房の四代目として、「手組み・正絹・日本製」にこだわり、現代の着物姿に合う洗練された帯締め・羽織紐の製作を続けています。

連絡先：047 (362) 2667

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 124  
(平成8年度指定)

しもうさくみひも  
**下総組紐** SHIMŌSA-KUMIHIMO  
ひさだ みちこ  
久田 美智子 (佐倉市)



組紐は、奈良時代に中国より仏教文化と共に渡来し、我が国独特の技術の発展により、日本組紐として優美な紐がつくられるようになりました。

久田さんは、昭和59年度に県指定を受けた実父の久松さんの下で修業を重ね、二代目としてその技術を受け継いでいます。各種工芸品展などでの入賞経験もあります。

連絡先：043 (462) 0475

木工品 Woodcraft

指定番号 163  
(平成19年度指定)

うじょうようじ  
**雨城楊枝** UJŌ-YŌJI  
もり たかお  
森 隆夫 (君津市)



雨城楊枝は、江戸時代より上総地方で作られてきた黒文字(クスノキ科落葉低木)を使った楊枝に、明治の末に先々代の森安蔵氏が、樹皮に模様を彫るなどして考案した装飾性・芸術性の高い楊枝です。

森さんは、父である先代光慶氏から技術を、後継者として銘「光慶」を受け継ぎ、伝統の楊枝づくりを続けています。

連絡先：090 (5407) 6999

製作体験あり

木工品 Woodcraft

指定番号 176  
(平成24年度指定)

うめがせようじ  
**梅ヶ瀬楊枝** UMEGASE-YŌJI  
たかはし あきお  
高橋 章雄 (市原市)



梅ヶ瀬楊枝は、市原市にある梅ヶ瀬渓谷の黒文字を使った楊枝に、樹皮に模様を彫るなど装飾性・芸術性の高い楊枝です。

高橋さんは、伝統技術を継承しながらも、新しい形の楊枝製作に取り組んでおり、後継者である弟子に伝授するとともに、梅ヶ瀬楊枝の良さと技法を広めていきたいと語っています。

連絡先：0436 (62) 1644

木工品 Woodcraft

指定番号 178  
(平成25年度指定)

くろもじ かんぼくふさようじ  
**ちば黒文字・肝木房楊枝**  
CHIBA-KUROMOJI・KANBOKU-FUSAYŌJI  
うきはら しのぶ  
浮原 忍 (千葉市)



楊枝(歯木・インド発祥)は538年仏教と共に伝来し、江戸時代に改良された爪楊枝、舌掃除、歯ブラシの機能を備えた房楊枝の出現で庶民に普及しました。

浮原さんは、研究を深めてきた結果、作品は多くの博物館や大学の教材、歌舞伎や時代劇映画、TVに活用されています。文化遺産と言える房楊枝の復元制作が可能なのは、日本で唯一人です。雅号「守破離」。

連絡先：043 (228) 2120

木工品 Woodcraft

指定番号 175  
(平成24年度指定)

ちば楊枝  
**ちば楊枝** CHIBA-YŌJI  
しみず よしお  
清水 吉郎 (千葉市)



ちば楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

清水さんは、いすみ楊枝の高木守人氏に師事し、楊枝製作の伝統技術を習得しました。

作る楊枝は、「末広」、「鉄砲」、「キセル」、「梅」、「白魚」など30種類。伝統的な楊枝の型や技術を、次の世代に広く普及させたいと語っています。

連絡先：043 (261) 3844

木工品 Woodcraft

指定番号 154  
(平成16年度指定)

ながいきようじ  
**長生楊枝** NAGAIKI-YŌJI  
むらさび たつお  
村杉 達雄 (睦沢町)



長生楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

村杉さんは、いすみ楊枝の高木守人氏に師事し、平成16年に、その流れをくむ製作者として「長生楊枝」の銘を許されました。材料の採取から製作に至るまで自らの手作業で行うことにより、江戸時代に始まる楊枝づくりの伝統を守り続けています。

連絡先：0475 (44) 0304

木工品 Woodcraft

指定番号 164  
(平成19年度指定)

はたざわようじ  
**畑沢楊枝** HATAZAWA-YŌJI  
なかやま ゆきお  
中山 幸雄 (木更津市)



畑沢楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

中山さんは、雨城楊枝の先代の森光慶氏に師事し、平成16年に、技能後継者として「畑沢楊枝」の銘を許されました。

材料採取から製作に至るまで、全ての工程を一人の職人が手作業で行い、削りや細工の熟練した技能が、黒文字の香りを一層引き立たせています。

連絡先：0438 (37) 4855

製作体験あり

木工品 Woodcraft

指定番号 170  
(平成22年度指定)

おけ  
**桶** OKE  
こみね しょうじ  
小峯 穰二 (野田市)



小峯さんは、父である吉一さんから受け継いだ、たがに洋銀を用いるなどの技術技法に磨きをかけてきました。

風呂桶を中心に、伝統技法を生かした様々な桶の製作に取り組んでおり、飯台や飯櫃には、木曾・上松産の榧しか使わないこだわりを持っています。

連絡先：04 (7196) 0132

木工品 Woodcraft

指定番号 109  
(平成5年度指定)

かす さ き ぼり  
**上総木彫** KAZUSA-KIBORI  
くらもち すずむ  
倉持 進 (九十九里町)



上総木彫とは、それぞれの木の持つ表情を活かし、立体的な絵柄を浮かび上がらせていく技法で、食器、盆、素彫品等を製作しています。

倉持さんは、21歳から関東各地で修行を重ねた後、昭和55年に千葉県に戻りました。

現在は、九十九里町にて長年培った経験を活かし、木彫作品の製作を続けています。

連絡先：0475 (76) 8774

木工品 Woodcraft

指定番号 162  
(平成19年度指定)

もく ちょう ごく  
**木彫刻** MOKU-CHÔKOKU  
やぶさき やすはる  
藪崎 保治 (市川市)



神社仏閣を飾る彫刻の技法(堂宮彫刻)を使い、一つの木を彫って、欄間、神輿、山車、向拜などの彫刻を生み出します。

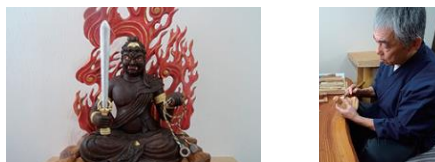
藪崎さんは、江戸時代から神輿づくりが盛んな市川市行徳地区の神輿店で15歳から彫刻の修業を始め、堂宮彫刻の技法を習得しました。

連絡先：047 (357) 5697

木工品 Woodcraft

指定番号 201  
(令和5年度指定)

もく ちょう ぶつ ぞう ちょう ごく  
**木彫(仏像彫刻)** MOKU-CHÔ  
かわしま やすふみ  
川島 康文 (いすみ市)



川島さんは、伝統的な仏像彫刻技法を10年間仏師の元で修業して習得しました。平成12年に独立して以来、寺院に祀る如来像、菩薩像、不動明王像や神社の神像など数多くの作品を手掛けてきました。また童のおじょうさまや荒彫彫刻など、自らの感性を生かした新しい作品作りにも意欲的に取り組んでいます。

連絡先：080 (6318) 4426

木工品 Woodcraft

指定番号 105  
(平成5年度指定)

き じ がん ぐ  
**木地玩具** KIJU-GANGU  
おおた まるむ  
太田 衛 (南房総市)



木地玩具とは、「ろくろ」で作る木製玩具のことを言い、独楽、輪抜きダルマ、けん玉、車ものなどがあります。

太田さんは、昭和54年より修業を重ね、江戸時代からの伝統技術を用い、ケンカ独楽、ダルマ回し等を製作。単純な動きの中に、人の気持ちをくすぐる洒落っ気のある木地玩具を作っています。

連絡先：0470 (20) 4082

木工品 Woodcraft

指定番号 182  
(平成29年度指定)

たて ぐ く み こ  
**建具組子** TATEGU-KUMIKO  
さいしゅ よしお  
最首 善雄 (いすみ市)



組子とは、釘を使わずに木を1本1本組み付けしていく技術で、飛鳥時代から長い年月をかけて磨き抜かれた木工技術です。

県指定を受けた父の最首實さんや先々代の祖父から伝統的な技法を受け継ぐ3代目。組子細工を施した衝立は芸術性も高く、亜細亜現代美術展にて、2年連続入賞した実績もあります。

連絡先：0470 (62) 1582

木工品 Woodcraft

指定番号 160  
(平成18年度指定)

らく どう ぞう がん もく ぞう がん  
**楽堂象嵌 (木象嵌)** RAKUDÔ-ZÔGAN  
うちやま はるお  
(MOKU-ZÔGAN) 内山 春雄 (我孫子市)



木象嵌とは、切り抜かれた色合いの異なる木片を地板に空けた穴にはめ込む工程を繰り返すことで模様や絵画を作製する技法です。

内山さんは、機械式糸鋸を用いた「糸鋸象嵌」のうち「一分象嵌」と「セン象嵌」の両方の技術の保持者です。最も難しい「垂直挽き」を考案し「楽堂象嵌」と名付けました。

連絡先：04 (7187) 6605

木工品 Woodcraft

指定番号 197  
(令和4年度指定)

に ほん さん か や い こ ぼん ・ しょうぎ ぼん  
**日本産榧囲碁盤・将棋盤** NIHONSAN-KAYA-IGOBAN・SHOGIBAN  
みうら かつみ  
三浦 勝巳 (山武市)



日本産榧囲碁盤・将棋盤は、その名の通り、今では大変貴重となった国産の榧に拘って製作された囲碁盤・将棋盤です。

三浦さんは、日本産の榧に拘り、自ら丸太を仕入れて製材し、盤から脚までを一貫して製作する国内でも数少ない、駒の成形や駒台、駒箱の製作までできる大変貴重な盤師です。

連絡先：0475 (89) 0008

木工品 Woodcraft

指定番号 198  
(令和4年度指定)

さし もの か ぐ  
**指物家具** SASHIMONO-KAGU  
おおたに ともあき  
大谷 智明 (長南町)



指物家具の由来はいくつかありますが、木材に「ホソ」と言われる凸凹をつくり、木と木を「さし合わせる」ことから指物というのが有力です。その指物技法を用いて製作した家具を指物家具と言います。

大谷さんは、家具産地静岡にて家具指物師に師事し、独立後、長南町に移転し伝統工法を用いたオリジナル家具を製作しています。

連絡先：0475 (47) 3530

竹工品 Bamboocraft

指定番号 59  
(昭和61年度指定)

いんばたけざいく  
印旛竹細工

INBA-TAKE-  
ZAIKU

よしざわ こうじ  
芳澤 幸二 (栄町)



印旛竹細工は、茶籠や花籠を作る竹細工です。製作に用いられる燻竹は古民家の屋根の骨組みに使用されていた真竹で、数百年かけて燻されて深い小豆色を呈します。

芳澤さんは、真竹を用いて茶道や花道で使用される作品を多く製作しています。仕上げの漆は何度も塗り重ねることで作品の耐久性を向上させます。

連絡先：0476 (95) 2531

竹工品 Bamboocraft

指定番号 196  
(令和3年度指定)

なんそうたけざいく  
南総竹細工

NANSŌ-TAKE-  
ZAIKU

やまもと とみひこ  
山本 富彦 (市原市)



南総竹細工は、昔からの技術・技法を生かし、美術的な要素を加えた花籠等を製作するものです。

山本さんは、この技術を昭和63年に県指定を受けた八木澤祐三氏から継承し、培った経験を生かして日常で使用できる竹籠バッグ等の製作など、工夫を加えた竹細工技術の活用に取り組んでいます。

連絡先：090 (3210) 4574

金工品 Metalwork

指定番号 159  
(平成18年度指定)

かんとうぎゅうとう  
関東牛刀

KANTŌ-GYŪTŌ

やまかわ よしと  
八間川 義人 (柏市)



関東牛刀は、東京周辺で生産されていた牛刀(洋包丁)であり、原材料の鋼材から成形、焼入焼戻、研ぎ、柄付けなど、全ての工程を伝統的な総手づくりで仕上げられています。

八間川さんは、代々刃物鍛冶の故郷守永氏が継承していた伝統技術を受け継いでいます。銘は「光月」。

連絡先：04 (7193) 0271

製作体験あり

金工品 Metalwork

指定番号 150  
(平成14年度指定)

さくらたんそうはもの  
佐倉鍛造刃物

SAKURA-TANZŌ-  
HAMONO

いなさか とくたろう  
稲坂 徳太郎 (酒々井町)



佐倉鍛造刃物は、農具を中心に作られてきましたが、現在では、包丁や小刀等の日常生活用品を製作しており、使い込むほど手に馴染み、愛着を持って長く使える鍛造刃物です。

稲坂さんは、13歳から父の手ほどきを受け、総火造りの手法を受け継ぎ、半世紀以上にわたり刃物造りに取り組んでいます。

連絡先：043 (496) 1601

金工品 Metalwork

指定番号 103  
(平成4年度指定)

しもうさばさみ  
下総鋏

SHIMŌSA-BASAMI

きたじま かずお  
北島 和男 (松戸市)



明治初期に厚手の服地と一緒に輸入された裁断用の鋏は、大きく重くて日本人には扱いにくかったため、扱いやすく改良したものが下総鋏です。

北島さんは、日本のラシャ切鋏の創製者である吉田弥十郎氏の流れをくみ、製法は全て手作りの「総火造り」にこだわりながら、2代目平三郎として鋏づくり一筋に打ち込んでいます。

連絡先：047 (362) 7858

金工品 Metalwork

指定番号 130  
(平成9年度指定)

しもうさばさみ  
下総鋏

SHIMŌSA-BASAMI

うかじ くにお  
宇梶 國雄 (松戸市)



明治初期に厚手の服地と一緒に輸入された裁断用の鋏は、大きく重くて日本人には扱いにくかったため、扱いやすく改良したものが下総鋏です。

宇梶さんは、日本のラシャ切鋏創製者の吉田弥十郎氏の流れをくみ、親子二代にわたりラシャ切鋏を専門に製作しています。

連絡先：047 (341) 4057

金工品 Metalwork

指定番号 151  
(平成15年度指定)

しもうさばさみ  
下総鋏

SHIMŌSA-BASAMI

のざき よしゆき  
野崎 吉之 (松戸市)



木鋏には、花鋏、植木鋏など、用途、植物の種類によって多種多様な形があります。

野崎さんは、県指定を受けた伯父の喜一郎さんと父の吉之助さんからその技術を受け継ぎ、日々研鑽しています。鋏の刃と刃の噛み合わせは、物が楽に切れ、しかも軽量に作られています。銘は初代より「光吉之」。

連絡先：047 (362) 3457

金工品 Metalwork

指定番号 97  
(平成3年度指定)

ぼうそううち は もの  
房総打刃物

BŌSŌ-  
UCHIHAMONO

いしづか よういちろう  
石塚 洋一郎 (成田市)



房総打刃物は、日本のラシャ切鋏の創製者である吉田弥十郎氏の流れをくみ、総火造りによる鋏などの刃物です。

石塚さんは、吉田氏に師事した祖父と父正次郎さんの技術を受け継ぎ、昭和56年度に「現代の名工」に選ばれた偉大な父を超えることも後継者としての使命だと語り、製作活動に情熱を傾けています。

連絡先：0476 (26) 8061

金工品 Metalwork

指定番号 167  
(平成20年度指定)

なりたうち は もの  
成田打刃物

NARITA-  
UCHIHAMONO

いしづか しょうじろう  
石塚 祥二郎 (成田市)



成田打刃物は、刀匠の流れをくみ、裁ち鋏の形状の利点を取り入れた、独特の風合いのある刃物類です。総火造りで製作される刃物は、強靱な粘りがあり、切れ味の良さが続くとともに、錆びにくいことが特長です。

石塚さんは、伝統技法を守りながら、現代の生活にも受け入れやすい工芸品づくりを目指しています。

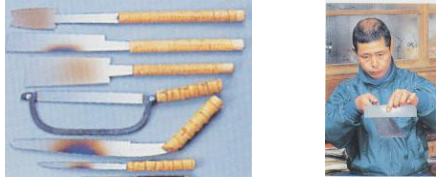
連絡先：0476 (26) 8061

製作体験あり

金工品 Metalwork

指定番号 134  
(平成9年度指定)

ぼうしゅうのこぎり  
**房州鋸** BŌSHŪ-NOKOGIRI  
かすや ゆうじ  
粕谷 雄治 (鴨川市)



船鋸は、堅い木材を使用する和船を製造する際に用いた鋸で、切れ味と耐久性が求められたため、数十工程を経て製作されていました。現在は、その製造技術を活かし、剪定用鋸をはじめ、生け花や工芸向きなどの用途に応じて製作されています。

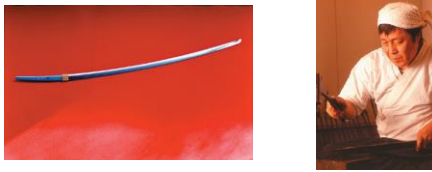
粕谷さんは、「中屋雄造正直」の銘を先代から受け継ぎ、その伝統を守っています。

連絡先：04 (7096) 0349

金工品 Metalwork

指定番号 158  
(平成17年度指定)

にほんとう  
**日本刀 (美術刀剣)**  
NIHONTŌ まつだ しゅうじ  
松田 周二 (千葉市)



松田さんの作る刀剣は古刀の味わいがあり、物静かで繊細な刃文が特徴です。

昭和49年に刀匠故高橋次平氏に師事し、昭和55年に文化庁より作刀承認許可を受け、以降鎌倉時代の刀の再現にこだわり製作しています。

文化庁長官賞や高松宮記念賞などを受賞し、平成21年には刀鍛冶の最高位である無鑑査に認定、平成27年には千葉県指定無形文化財保持者となっています。刀匠名「次泰」。

連絡先：043 (228) 3044

金工品 Metalwork

指定番号 110  
(平成5年度指定)

にほんとう  
**日本刀** NIHONTŌ  
えざわ としはる  
江澤 利春 (南房総市)



古来から美術品としても価値のある日本刀。

江澤さんは、昭和49年に人間国宝である隅谷正峯氏に師事し、昭和54年に文化庁より刀剣製作の承認を受け、昭和55年に独立し、鍛錬所を開設しました。新作名刀展において特別賞(日本美術刀剣協会会長賞)など数々の受賞があります。刀銘は「利宗」。

連絡先：0470 (36) 3838

人形 Dolls

指定番号 104  
(平成4年度指定)

せっく にんぎょう  
**節句人形** SEKKU-NINGYŌ  
おかむら ひろかず  
岡村 洋一 (千葉市)



節句人形は、子供の成長を願い、古くから日本の季節行事として親しまれ引き継がれてきた桃の節句、端午の節句のときに飾る「ひな人形」、「五月人形」です。

岡村さんは、節句人形の頭を作る頭師です。頭づくりは全て手作業で行い、特に神経を使うのが、目の切り出しで、人形に生命を吹き込んでいきます。

連絡先：043 (232) 2290

人形 Dolls

指定番号 174  
(平成23年度指定)

せっく にんぎょう  
**節句人形** SEKKU-NINGYŌ  
まつざわ たけひと  
松澤 武人 (鎌ヶ谷市)



節句人形は、子供の成長を願い、古くから日本の季節行事として親しまれてきた桃の節句、端午の節句のときに飾る「雛人形」、「五月人形」です。

松澤さんは、節句人形づくりの四代目であり、父の一男さんから受け継ぎ、磨きをかけてきた技術が次代に引き継がれ、更に発展していくよう努めたいと語っています。

連絡先：047 (443) 4618

製作体験あり

人形 Dolls

指定番号 180  
(平成25年度指定)

せっく にんぎょう  
**節句人形 (雛人形)**  
やまだ よしのり  
山田 吉徳 (流山市)



子供の成長を願い、古くから日本の節句行事を通じ親しまれてきた「雛人形」や「五月人形」。

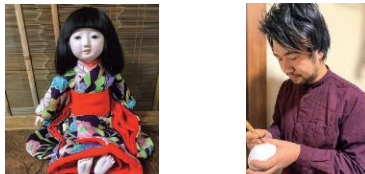
山田さんは、節句人形の着付け師として、また日本人形協会認定の節句人形工芸師として、雛人形の胴部や手の振り付けを行い、伝統にこだわりながら時代のニーズに合った雛人形制作に取り組んでいます。

連絡先：04 (7158) 4125

人形 Dolls

指定番号 191  
(令和元年度指定)

いちまつ にんぎょう  
**市松人形** ICHIMATSU-NINGYŌ  
いわむら りょう  
岩村 亮 (市川市)



市松人形は、江戸時代の歌舞伎役者、佐野市川市松に似せて作られたことに由来するとされ、「いちまさん」の愛称でも親しまれてきました。

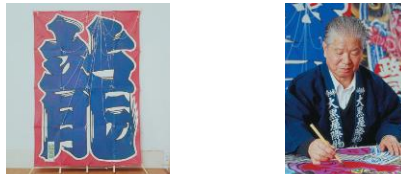
岩村さんは、現代に残る数少ない市松人形師の号である松乾齋東光の四代目として伝統の技法を現代に残すべく、市松人形の製作と普及に取り組んでいます。

連絡先：080 (4115) 7674

郷土玩具 Folk Toys

指定番号 156  
(平成16年度指定)

かくだこ そでだこ  
**角罌・袖罌** KAKUDAKO・SODEDAKO  
かなや もりひと  
金谷 司仁 (市原市)



角罌・袖罌は、上総地方で、男児が誕生するとその子の健康と出世を願い、端午の節句に罌を贈る風習があるなど、各種慶事に用いられてきました。

金谷さんは、昭和25年から罌作りを始め、先々代が大正時代に描いた下絵を参考に製作しています。罌愛好者の集いに参加するなどして、罌の素晴らしさを伝えていきます。

連絡先：0436 (61) 0131

郷土玩具 Folk Toys

指定番号 169  
(平成22年度指定)

かくだこ そでだこ  
**角罌・袖罌** KAKUDAKO・SODEDAKO  
かなや せいじ  
金谷 政司 (市原市)



角罌・袖罌は、上総地方で、男児が誕生するとその子の健康と出世を願い、端午の節句に罌を贈る風習があるなど、各種慶事に用いられてきました。

金谷さんは、明治38年の創業以来、四代にわたって罌作りを続けており、平成16年に県指定を受けた父の司仁さんから家伝の伝統技法を習得しました。

連絡先：0436 (61) 0131



郷土玩具 Folk Toys

指定番号 149  
(平成14年度指定)

かす さ かくだこ  
**上総角罫** KAZUSA-KAKUDAKO  
おざわ 登 (市原市)  
小澤



上総角罫は、上総地域において、江戸時代中期から各種慶事のお祝いに用いられ、特に男子の出生のお祝いでは、元気な子に育つようにとの願いが込められました。

小澤さんは、昭和 61 年に県指定を受けた義父の高澤文雄さんから伝統的な技法を受け継ぎ四代目であり、その伝承と発展に意欲的に取り組んでいます。

連絡先：0436 (22) 4903

郷土玩具 Folk Toys

指定番号 88  
(昭和63年度指定)

しば はら にんぎょう  
**芝原人形** SHIBAHARA-NINGYŌ  
ちば 惣次 (長南町)  
千葉



芝原人形は、浅草の今戸人形を元に、明治初期から長南町芝原で作り続けられてきた郷土玩具であり、粘土板を抜型に入れ、乾燥、素焼きし、糊粉をかけ、泥絵具で彩色した素朴な味わいのある人形です。

千葉さんは、陶芸を学んだ後、一時途絶えていた芝原人形を復元、四代目を継承しています。

連絡先：0475 (46) 0850

和楽器 Japanese Musical Instruments

指定番号 161  
(平成19年度指定)

き ばち  
**木撥** KIBACHI  
つづき 茂幸 (流山市)  
都築



木撥には、地元の流山の白檜が光沢もよく、撥材料として最も適していることから、先代よりこの地で製作しています。

都築さんは、四代目であった父の操さんの下で修業し、江戸時代創業の邦楽器製造の老舗「撥幸」の後継者となり、弟とともに木撥作りを伝えています。

連絡先：04 (7158) 2352

和楽器 Japanese Musical Instruments

指定番号 113  
(平成6年度指定)

さ わら だい こ  
**佐原太鼓** SAWARA-DAIKO  
まつもと 通男 (香取市)  
松本



太鼓には、原材料である櫂を原木のまま仕入れ、胴づくり、皮の加工、張り上げまでの工程があり、その大部分を手作業で行っています。

松本さんは、昭和 47 年より父の下で太鼓製作技術を習得し、四代目として製作に励んでいます。製作された太鼓は、地元の「佐原囃子」の演奏や関東各地のお祭り等で使用されています。

連絡先：0478 (52) 2787

見学のみ可能

和楽器 Japanese Musical Instruments

指定番号 142  
(平成11年度指定)

さ わら だい こ  
**佐原太鼓** SAWARA-DAIKO  
あずま 新治 (香取市)  
東



東さんは、平成6年度に県の伝統的工芸品に指定された「佐原太鼓」の製作者であり、父でもある「秀行」さん(故人)から伝統技術、技法を受け継ぎ、四代目としてその保存・向上に意欲的に取り組んでいます。

小太鼓から大太鼓まで、各種の和太鼓の本体・皮のなめし・張り等全工程の希少な技術を修得しています。

連絡先：0478 (52) 3991

見学のみ可能

和楽器 Japanese Musical Instruments

指定番号 148  
(平成13年度指定)

なん そう しゃく はち  
**南総尺八** NANSŌ-SHAKUHACHI  
ふくお 毅 (市原市)  
福尾



南総尺八は、真竹を原材料として、中継ぎ部分を山桜の皮で巻き付けるなど、竹の優美さを生かして製作されます。

福尾さんは、平成 7 年に県指定を受けた加藤萬童氏の下で修業を重ね、三代目としてその技術・技法を受け継いでおり、古来からの伝統を絶やすことのないよう普及に努めています。号は「福尾毅童」。

連絡先：0436 (22) 5141

和楽器 Japanese Musical Instruments

指定番号 194  
(令和2年度指定)

おお もり しゃく はち  
**大森尺八** OOMORI-SHAKUHACHI  
すずき ひろあき (勝浦市)  
鈴木 広昭



大森尺八は、地元の真竹を原材料として、中継ぎに山桜の樹皮を巻き付けたり、螺鈿を施したりして全体の調和を重視しています。

鈴木さんは、師匠の名を受け継ぎ、二代目「東照」として地元で尺八の製作と普及に尽力しており、良い音と美しい管の追求を神髄として取り組んでいます。

連絡先：0470 (76) 2659

神祇器 Religious/ Festive Ornaments

指定番号 107  
(平成5年度指定)

え ど み こ し  
**江戸神輿** EDO-MIKOSHI  
しいな まさお (我孫子市)  
椎名 正夫



江戸神輿は、胴を高上げて、周りを回廊と勾欄と階で装飾した造りの「勾欄造り」が特徴の神輿であり、吟味された木材が使用されています。

椎名さんは江戸時代の古い神輿の修復にも携っており、いつの時代に、誰が見ても良いと思う神輿づくりに取り組んでいます。

連絡先：04 (7182) 0333

見学のみ可能

神祇器 Religious/ Festive Ornaments

指定番号 47  
(昭和60年度指定)

ぎょう とく み こ し  
**行徳神輿** GYŌTOKU-MIKOSHI  
なかだい みのる (市川市)  
中臺 實



行徳の神輿作りは、江戸時代から続き「関東型」と呼ばれ、屋根が大きく張出し、堂が細くメリハリのある形が特徴です。

中臺さんは、主に木地師として古くから行徳地方に伝わる行徳大唐破風神輿をはじめ、各種の神輿を製造しています。また、文化・文政時代の神輿の復元、修理等にも力を入れています。

連絡先：047 (357) 2061

神祇器 Religious/ Festive Ornaments

指定番号 183 (平成 29 年度指定)

ぎょうとく み こし  
行徳神輿 GYŌTOKU-MIKOSHI  
なかだい ひろし  
中墓 洋 (市川市)



行徳神輿は、「関東型」と呼ばれ、屋根が大きく張出し、堂が細くメリハリのある形が特徴です。中墓さんの製作所は、全工程を自社で一貫して製作できる数少ない製作所です。中墓さんは神輿ミュージアムの公開によって神輿の魅力と伝統技術を国内外に伝えるための新たな取り組みも積極的に行っています。

連絡先：047 (357) 2061

神祇器 Religious/ Festive Ornaments

指定番号 63 (昭和 61 年度指定)

かす さ し し がし ら  
上総獅子頭 KAZUSA-SHISHIGASHIRA  
は せ が わ て る あ き  
長谷川 照昭 (山武市)



獅子頭は、桐を素材として漆を塗って作りますが、九十九里地方に広く伝わる「上総獅子頭」は、下歯が上歯の内側に入る点に特徴があります。

長谷川さんは、大正時代に絶えてしまった上総獅子頭を、自らの研究と工夫により復活させ、その製作に励んでいます。

連絡先：0475 (58) 1428

神祇器 Religious/ Festive Ornaments

指定番号 49 (昭和 60 年度指定)

ほんのう え ま  
本納絵馬 HONNŌ-EMA  
や べ ひろし  
矢部 宏 (茂原市)



絵馬は何かを祈願するとき、祈願した願いが叶ったときに寺社に奉納するものです。

矢部さんは高祖父の代から絵馬を手掛け、信仰奉納用のほか、室内装飾用の絵馬も製作しています。本納絵馬は日本画の技術を取り入れ、絵画性の高いものである点に特色があります。

連絡先：0475 (34) 3108

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 184 (平成 29 年度指定)

うち あ は な び  
打上げ花火 UCHIAGE-HANABI  
た か ぎ い さ む  
高城 勇 (柏市)



高城さんは、明治時代後期から花火作りを続ける高城家の4代目で、地元の手賀沼花火大会を第1回目から手掛けています。

初代である祖父のもとで習得した火薬の配合や、檜の実や籾殻を使った割り薬作りなど原材料・技法を守りながら、毎年競技大会に出品し、花火の質や演出にもこだわっています。

連絡先：04 (7191) 3376

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 165 (平成 19 年度指定)

うち あ は な び  
打上げ花火 UCHIAGE-HANABI  
ふ く や ま い ち ろ う  
福山 一郎 (君津市)



上総地方では、明治時代中期から各村で遊び道楽として手製花火の打ち上げが盛んでした。

福山さんは、父の次郎さんの下で修業を重ね、江戸時代末期から花火作りを続ける福山家の六代目です。また、「形もの」の技術革新にも余念なく、伝統の中にも新しい風を吹き込みながら、花火作りを続けています。

連絡先：0439 (55) 7033

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 101 (平成 3 年度指定)

え ど  
江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ほ づ み み の る  
穂積 実 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。

穂積さんは、つまみかんざしの名人である故石田竹次氏に師事し、伝統技術・技法を受け継ぎ、独立しました。以来、かんざしを通して女性を演出し続け、流行にも絶えず気を配っています。

連絡先：047 (337) 4506

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 185 (平成 29 年度指定)

え ど  
江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ほ づ み ひ ろ し  
穂積 裕 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。

穂積さんは、父の実さんから伝統技術・技法を受け継ぐとともに、現代感覚を盛り込んだブローチやフォトフレームの製作など、つまみかんざしの技法のアレンジにも広く取り組んでいます。

連絡先：047 (337) 4506

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 190 (令和元年度指定)

え ど  
江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ほ づ み ゆ う こ  
穂積 裕子 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。

穂積さんは、父の実さんから伝統技術・技法を受け継ぐとともに、女性の感性を取り入れたチャーカーやバッグチャーム等の製作にも取り組み、つまみかんざしの魅力の普及に努めています。

連絡先：090 (8852) 3946

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 186 (平成 29 年度指定)

え ど  
江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ふ じ い あ や の  
藤井 彩野 (松戸市)



つまみかんざしは、髪飾りの伝統的なものとして、その技法が江戸時代より伝えられてきました。

藤井さんは、ワークショップを開催するほか、現代的なデザインを取り入れたものを製作し、つまみかんざしの普及や次世代への伝承にも、積極的に取り組んでいます。

連絡先：090 (9142) 1227

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 200 (令和5年度指定)

つまみかんざし TSUMAMI-KANZASHI  
いしはら としあき  
石原 利晃 (九十九里町)



つまみかんざしは、ちりめんや羽二重をピンセットでつまみ、小さく折りたたんで、花や鳥といったモチーフを作る、江戸時代から続く伝統的な髪飾りです。

石原さんが製作するつまみかんざしは、生きているかのような存在感があり、大手百貨店でも取り扱われ、京都の舞妓さんに使用されるなど幅広く活躍されています。

連絡先：0475 (76) 8212

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 195 (令和2年度指定)

おおたき やき OOTAKI-YAKI  
いぐち たかゆき  
井口 峰幸 (大多喜町)



大多喜焼は、地元産出の陶土を原材料として、手びねりや蹴ろくろを用いた技法により製作され、粗く独特な質感が特徴的な焼き物です。

瀬戸・常滑で陶芸を学んだ井口さんは、伝統的な技術を研究し、地元の原材料にこだわった釉薬を使って、陶芸作品の製作に励んでいます。

連絡先：0470 (84) 0664

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 177 (平成24年度指定)

さわら SAWARA-RAFFIA  
いし井 ときこ  
石井 登貴子 (香取市)



ラフィアとは、マダガスカル原産のラフィア椰子の葉の部分加工した天然素材のことです。バッグやバスケット、帽子等の素材として使われています。

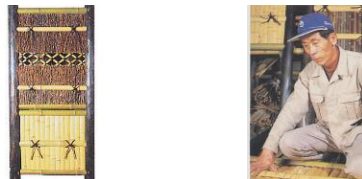
石井さんは、ラフィア工芸の第一人者であった石井かね氏の下で、伝統技術を継承してきました。使い込むほどに柔らかさと艶を増すということで、好評を得ています。

連絡先：0478 (54) 5641

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 35 (昭和59年度指定)

しもうさそでがき SHIMŌSA-SODEGAKI  
こしかわ かつゆき  
下総袖垣 越川 勝之 (多古町)



袖垣は、日本家屋で、玄関の脇や裏木戸の周囲などに目隠しを目的とした垣根であり、和服の袖に似ているところからこの名称がつけられました。

越川さんは、大阪で修業を積み、安土・桃山時代の形を基本とした伝統的な袖垣作りを守り続けています。これからも納得のいく袖垣を作っていきたいとのことでした。

連絡先：0479 (75) 1335

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 166 (平成20年度指定)

じょうばくら JŌBA-KURA  
いげかみ ゆたか  
乗馬鞍 池上 豊 (富里市)



西洋乗馬鞍は、明治以降に製造が始まり、原材料は牛革を使い、二本針縫いなどにより製作されます。富里市は、競走馬のふるさととして有名なことから、乗馬鞍は、この地に相応しい地域の歴史とともに歩む工芸品です。

池上さんは、先代から技術・技法を受け継ぎ、明治から変わらない製法で製作しています。

連絡先：0476 (93) 3127

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 121 (平成8年度指定)

ぞうげぼり ZŌGE-BORI  
あらかわ さとし  
象牙彫 荒川 啓 (松戸市)



象牙彫は、江戸時代、江戸文化爛熟期に隆盛を誇った日本独特の装飾品でした。

荒川さんは、祖父の代から三代にわたる象牙職人で、旧来からの根付などの他に、象牙の素材を活かした茶器や装身具などのオリジナル性に富むものも製作し、新たな作品にも取り組んでいます。

連絡先：047 (362) 7124

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 115 (平成7年度指定)

とうかぐ TŌ-KAGU  
ふるしま かずよし  
籐家具 古島 一良 (千葉市)



丈夫で軽量・柔軟な籐材料を使用して国産籐家具を製作しています。

古島さんは父定男さん(現代の名工)のもと修行し、現在「千葉県の卓越技能者」として表彰を受け技術を継承しています。

素材を選ぶ審美眼と、高度な製作技術を生かしたオリジナルデザイン家具やインテリア小物など、時代を超えて広く愛され好評を得ています。

連絡先：043 (241) 3031

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 54 (昭和60年度指定)

とうせいひん TŌ-SEIHIN  
ほりえ しんいち  
籐製品 堀江 深一 (銚子市)



籐製品は、籐を使用して製作する家具や日用雑貨等です。籐職人の数は全国でも数えるほどしかいなくなりました。

堀江さんは、素材から製品まで一貫した手作り、籐椅子をはじめ、籐の良さを生かした各種の家具、小物を製造しています。製品の良し悪しを決める技のポイントは、巻き加工と張りを確実にすることです。

連絡先：0479 (23) 0806

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 68 (昭和61年度指定)

とうせいひん TŌ-SEIHIN  
かせ ふみお  
籐製品 加瀬 文夫 (銚子市)



籐製品は、籐を使用して製作する家具や日用雑貨等です。

加瀬さんは、手巻、手編という技術を用いた椅子やテーブルの製作を得意とし、伝統的な製作技術の上に現代的な新しいデザインの研究にも意欲的であり、全国的な展示会にも出品し、好評を得ています。

連絡先：0479 (22) 5477

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 188  
(平成30年度指定)

とうせいひん  
籐製品

TŌ-SEIHIN

かせ 加瀬  
みおの 稔 (銚子市)



籐の特徴である曲線と強度、そして軽さを最大限に生かし製作したのが籐製品です。

加瀬さんは、昭和61年に県指定を受けた父の文夫さんから受け継いだ技術を大事にしながら、現代の服装や家屋に合った籐製品をお客様目線で製作しています。手編の技術は展示会などでも好評を得ています。

連絡先：0479 (22) 5477

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 147  
(平成13年度指定)

だま  
とんぼ玉

TONBO-DAMA

もりや 森谷  
いと 糸 (千葉市)



とんぼ玉は、穴の開いた色ガラスの玉にいろいろな模様を付けたもので、古代文明から作り続けられており、現代でもペンダントや根付などの装飾品に使われています。

森谷さんは、バーナーワークの中の一つとして「とんぼ玉」を作り始め、着物の模様や日本の色を基調とした玉を作りたいとのことでした。

連絡先：043 (237) 7799

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 193  
(令和2年度指定)

だま  
とんぼ玉

TONBO-DAMA

もりや 森谷  
みふゆ 深冬 (千葉市)



森谷さんは、とんぼ玉の伝統性に感銘を受け、平成13年に県指定を受けた母の糸さんから伝統技術・技法を継承してきました。

とんぼ玉は、様々な色や形をガラスの玉で表現でき、新たなデザインにも積極的に取り組みながら、身近な自然を写した日本人の感性を表現した玉の製作に励んでいます。

連絡先：043 (237) 7799

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 171  
(平成22年度指定)

だま  
とんぼ玉

TONBO-DAMA

こまの 駒野  
さちこ 幸子 (千葉市)



駒野さんは、平成13年にとんぼ玉で伝統的工芸品の県指定を受けた森谷糸氏に師事し、繊細な技法を習得しました。

受け継いだ技法をもとに、戦国玉や法隆寺玉といった伝統的なとんぼ玉の製作に力を注ぐ一方で、新たな技法やデザインにも積極的に取り組み、より魅力的な作風を目指しています。

連絡先：080 (3534) 9240

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 34  
(昭和59年度指定)

はけ  
刷毛

HAKE

たなか しげみ  
田中 重己 (習志野市)



刷毛は、建設業から食品業までその利用の途は広く、原料は動物の毛であり、穴熊から豚の毛まで多種にわたりますが、国内調達に困難となってきています。

田中さんは、明治40年から続く刷毛作りの「小林の刷毛」の三代目として、伝統の手法で刷毛作りを行っています。

連絡先：047 (472) 3431

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 173  
(平成23年度指定)

はけ  
刷毛

HAKE

たなか こうへい  
田中 宏平 (習志野市)



田中さんは、昭和59年に県指定を受けた父の重己さんの下で修業を重ね、家伝の伝統技法を習得しました。表装技術に使われる刷毛は、糊の濃度や紙の強度に応じて、むら、たまり、すじ等を生じさせず、手早く均一に塗布できることが求められるので、入念かつ繊細な熟練の技が必要となります。

連絡先：047 (472) 3431

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 106  
(平成5年度指定)

ざいく  
ビーズ細工

BEADS-ZAIKU

せんた 仙田  
しゅういち 秀一 (柏市)



ビーズ細工とは、古くは宝石に属するものとして貴重に扱われていたビーズを使用し、日本刺繍の技法を駆使して、直径1.4～2ミリメートルのビーズを2粒ずつ丁寧に刺繍したものです。

仙田さんは、昭和27年から父の鎮男さんの下で技術を学び、以来、この道一筋です。

連絡先：04 (7143) 4181

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 187  
(平成30年度指定)

ざいく  
ビーズ細工

BEADS-ZAIKU

せんた 仙田  
かずまさ 和雅 (柏市)



ビーズ細工とは、古くは宝石に属するものとして貴重に扱われていたビーズを使用し、日本刺繍の技法を駆使して、直径1.4～2ミリメートルのビーズを2粒ずつ丁寧に刺繍したものです。

仙田さんは平成2年から父の秀一さんの下で技術を学び、その伝承と発展に意欲的に取り組んでいます。

連絡先：04 (7143) 4181

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号 172  
(平成22年度指定)

びょうぶ  
屏風

BYŌBU

たじま よしひろ  
田島 義弘 (市川市)



屏風とは、部屋の仕切りや装飾に用いる家具のことであり、小さなふすまのようなものを数枚つなぎ合わせて、折りたためるものです。

田島さんは、下張り葺張りや蝶番などの伝統技法を後世に伝えるため、県の職業訓練校などで後進の育成に尽力し、「千葉県の上級技能者」として表彰を受けています。

連絡先：047 (357) 6094

その他工芸品 Other Crafts

指定番号50  
(昭和60年度指定)

べっ甲細工  
やぶき  
矢吹

BEKKŌ-ZAIKU  
おぼえ  
覚 (松戸市)



べっ甲は、江戸時代の初めポルトガルやオランダから伝来したのですが、その後、我が国の細工師によって技術、技法が受け継がれてきました。

矢吹さんは、べっ甲細工一筋であり、従来は櫛や帯留を製作していましたが、現在は、ペンダント等の製作にも取り組んでいます。

連絡先：047 (364) 9606

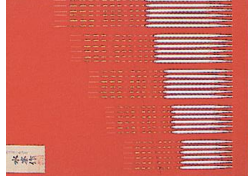
製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts

指定番号65  
(昭和61年度指定)

へら浮子

HERA-UKI  
ひろし  
弘 (旭市)



へら鮒釣り用の浮子は、江戸時代以来の伝統を有するものであり、本体部分には孔雀の羽を用いています。

小澤さんは、釣り人に喜ばれる時代に合った浮子を作るため、数々の工夫を重ねています。雅号は「小澤水筆」。

市内にあるへら鮒専門の釣堀センターでも小澤さんの浮子を使用している人が多くいます。

連絡先：0479 (63) 9077

その他工芸品 Other Crafts

指定番号135  
(平成9年度指定)

房州うちわ  
おおた みつえ  
太田 美津江 (南房総市)



房州うちわは1本の女竹から作られ、丸柄と美しい窓が特徴です。

太田さんは、代々続くうちわ職人の家系で、父の一男さんから技術を受け継ぎ、伝統工芸士として認定されています。

また、地域の事業者で組織する房州うちわ振興協議会の会長を務め、生産・販売や体験事業の他に後継者の育成にも取り組んでいます。

連絡先：0470 (33) 2792

製作体験あり

## ■千葉県指定伝統的工芸品製作者一覧■ (故人等)

	製作者名	指定品名	市町村	指定年度	指定番号	備考
あ	相澤 昭太郎	金銀モール縫箔	匝瑳市	平成11	143	(故人)
	相澤 秀昭	衣裳着人形	印西市	平成11	141	(故人)
	東 秀行	佐原太鼓	香取市	平成6	112	(故人)
	天城 健治	下総鉄	松戸市	昭和59	12	(故人)
	天城 忠治	下総打刀物	松戸市	平成8	122	(廃業)
	天野 康郎	象牙彫	松戸市	昭和63	90	(故人)
	飯田 精一	桐タンス	香取市	昭和63	83	(故人)
	飯沼 光治	下総鬼瓦	成田市	昭和60	53	(故人)
	碓 博	へら浮子		昭和61	64	(転居)
	池田 和彌	いすみ楊枝	いすみ市	平成16	155	(廃業)
	石井 かね	佐原ラフィア	香取市	昭和60	52	(故人)
	石井 昌次	日本刀	館山市	昭和62	71	(故人)
	石井 徳治	宮彫	南房総市	昭和63	84	(故人)
	石井 莊道	佐原ラフィア	香取市	平成7	118	(故人)
	石川 健議	房州いわし船	南房総市	昭和60	40	(故人)
	石塚 栄	竹宝竿	野田市	昭和59	18	(故人)
	石塚 正次郎	房総打刀物	成田市	昭和59	10	(故人)
	伊藤 理一	日本刺繍	匝瑳市	平成3	102	(故人)
	伊原 健蔵	下総打刀物	松戸市	平成7	117	(故人)
	今村 靖彦	琴	柏市	昭和62	79	(故人)
	岩井 三郎	飾り煙管	市川市	平成9	129	(故人)
	岩井 正雄	九十九里漁船	旭市	昭和62	74	(故人)
	岩館 傳	桐下駄	成田市	平成8	125	(故人)
	浦崎 栄一	房州うちわ	館山市	平成10	139	(故人)
	榎本 初蔵	小鳥籠	八千代市	昭和62	76	(故人)
	大内 一	和弓	鋸南町	昭和63	87	(故人)
	太田 一男	房州うちわ	南房総市	昭和59	26	(故人)
	大野 正敏	上総鉄	市原市	昭和59	9	(廃業)
	岡本 貞蔵	上総袖佩	茂原市	昭和60	42	(故人)
	小川 いね子	房州うちわ	館山市	昭和63	89	(故人)
	小川 勝義	安房竹工芸品	館山市	昭和61	60	(廃業)
	小川 雄四郎	房州うちわ	館山市	平成8	127	(故人)
	小川 齊太郎	房州うちわ	館山市	昭和60	43	(故人)
	沖田 幸雄	蒔絵	成田市	昭和61	67	(故人)
	小沢 忠一	萬祝式大漁旗	銚子市	昭和59	4	(故人)
	小澤 勇	萬祝式大漁旗	旭市	昭和60	37	(故人)
	小畑 義徳	毛筆	市原市	昭和59	28	(故人)
	小畑 健三郎	毛筆	市原市	昭和60	46	(故人)
か	粕谷 實	房州船鋸	鴨川市	昭和62	72	(故人)
	粕谷 雄吉	房州船鋸	鴨川市	昭和59	13	(故人)
	加藤 徳蔵	上総鯉のぼり		昭和61	56	(故人)
	加藤 萬	南総尺八	市原市	平成7	116	(故人)
	鎌田 芳朗	佐原張子	香取市	昭和62	78	(故人)
	北原 唯幸	篠笛	千葉市	平成11	140	(故人)
	栗原 康司	下総染	佐倉市	昭和59	3	(廃業)
	元 良好弘	けやき木工品	君津市	平成15	152	(廃業)
	元 良由男	けやき木工品	君津市	平成8	128	(故人)
	古作 又造	藍染印半天	匝瑳市	平成3	94	(故人)
	駒田 照	木工挽物	野田市	昭和59	15	(故人)
	小峯 吉一	桶	野田市	昭和63	82	(故人)
さ	斎藤 京子	へら浮子	習志野市	昭和60	51	(廃業)
	斎藤 光司	唐棧織	館山市	昭和59	2	(故人)
	斉藤 栄	木撥	流山市	昭和59	31	(故人)
	斉藤 信太郎	押絵羽子板	千葉市	昭和61	69	(故人)
	最首 實	建具組子	いすみ市	平成12	146	(廃業)
	佐伯 達雄	佐原和傘	香取市	昭和60	45	(故人)
	酒井 幸司	八千代びな	八千代市	昭和59	24	(廃業)
	坂井 武雄	上総荷車	富津市	昭和61	58	(故人)
	嵯峨野 武	上総とんび	一宮町	昭和61	62	(故人)

	製作者名	指定品名	市町村	指定年度	指定番号	備考
	佐久間 勝治郎	江戸つまみかんざし	流山市	昭和59	36	(故人)
	佐藤 忠章	上総和竿	市原市	平成3	99	(故人)
	佐藤 利治	上総和竿	市原市	昭和62	75	(故人)
	佐藤 稔	上総和竿	市原市	平成8	120	(故人)
	座間 近	伝統農具模型	君津市	昭和63	85	(廃業)
	三平 昌一	房州うちわ	館山市	平成10	137	(故人)
	汐見 正男	房州うちわ	南房総市	昭和59	27	(廃業)
	穴倉 敏志	いちばら小楊枝	市原市	平成20	168	(廃業)
	志知 徳美	日本刺繍	我孫子市	平成10	136	(故人)
	新藤 孝	房州和船		昭和59	14	(県外転出)
	菅谷 敏夫	堂宮神輿	旭市	平成7	119	(故人)
	菅谷 又三	野田和樽	野田市	昭和62	73	(故人)
	鈴木 栄二	萬祝長着	鴨川市	昭和62	70	(故人)
	鈴木 照子	房州うちわ	館山市	平成10	138	(故人)
	鈴木 徳平	行徳神輿	市川市	昭和60	48	(故人)
	鈴木 美子	行徳神輿	市川市	平成元	92	(故人)
	鈴木 富雄	下総染小紋	船橋市	昭和59	7	(故人)
た	関 元義	小鳥籠	御宿町	昭和62	77	(故人)
	高木 守人	いすみ楊枝	いすみ市	平成3	98	(故人)
	高澤 文雄	上総角佩	市原市	昭和61	61	(廃業)
	高根 弘	高嶺ひも	銚子市	平成5	108	(廃業)
	高橋 涉	三味線	富津市	昭和62	80	(故人)
	玉ノ井 芳雄	野田和樽	野田市	昭和60	39	(故人)
	千葉県商工 業協同組合	房州うちわ	館山市	昭和59	25	(解散)
	塚本 昇	和弓	匝瑳市	平成3	100	(故人)
	都築 操	木撥	流山市	昭和59	30	(故人)
	常澄 富美夫	長南とんび佩	市原市	昭和59	21	(故人)
	常世田 安弘	銚子ちぢみ	銚子市	昭和59	1	(故人)
	戸島 甲喜	木象嵌	市川市	平成8	123	(故人)
	戸辺 俊一	江戸神輿	野田市	昭和59	29	(故人)
	鳥山 眞	和弓用矢	佐倉市	昭和59	20	(故人)
な	中台 一司	下総竹細工	佐倉市	昭和59	19	(故人)
	中野 敏夫	手描金更紗	木更津市	平成3	95	(廃業)
	野崎 吉之助	下総鉄	松戸市	平成3	96	(故人)
	野崎 喜一郎	下総鉄	松戸市	昭和59	11	(故人)
	野村 寅吉	あづま傘	市川市	昭和60	44	(故人)
は	日色 恒行	下総手描友禅	匝瑳市	昭和59	5	(故人)
	久田 久松	下総組紐	佐倉市	昭和59	8	(故人)
	福山 次郎	小糸の煙火	君津市	昭和59	33	(故人)
	船見 義雄	長南袖佩	長南町	昭和59	22	(故人)
	古島 定男	藤椅子	千葉市	昭和59	32	(故人)
	穂積 和代	江戸つまみかんざし	市川市	平成12	145	(故人)
ま	松澤 一男	節句人形	白井市	昭和59	23	(故人)
	丸山 忠弘	房州うちわ	館山市	平成16	153	(故人)
	三橋 英作	真朱焼	鎌ヶ谷市	平成9	131	(故人)
	宮内 桂三郎	銚子竹すだれ	銚子市	平成6	114	(廃業)
	宮内 丈宣	銚子竹すだれ	銚子市	昭和60	41	(故人)
	宮澤 紀年	萬祝式大漁旗	銚子市	昭和60	38	(故人)
	深山 松三	蒔絵	千葉市	昭和61	66	(故人)
	深山 琳	江戸蒔絵	千葉市	平成12	144	(故人)
	望月 悦二郎	江戸唐木細工	野田市	平成16	157	(故人)
	本吉 好文	上総唐箕	君津市	令和元	192	(廃業)
	森 光慶	雨城楊枝	君津市	昭和59	16	(故人)
や	矢矧 幸一郎	切箸(金切鉄)	館山市	昭和63	81	(故人)
	八木澤 祐三	南総竹細工	市原市	昭和63	86	(故人)
わ	和田 秋野	綴錦織	館山市	昭和61	5	(故人)
	渡辺 博	下総鬼瓦	成田市	平成8	126	(故人)
	渡辺 利之助	下総へら鉾釣竿	我孫子市	昭和59	17	(故人)



## 経済産業大臣指定伝統的工芸品

※経済産業大臣指定伝統的工芸品とは、「伝統的工芸産業の振興に関する法律」に基づき指定されるものであり、一定規模の産地があることなどが必要とされます。

ほうしゅう

# 房州うちわ

房州うちわは、京都の「京うちわ」、四国の「丸亀うちわ」とともに日本三大うちわのひとつとして、南房総地域で受け継がれてきた伝統的工芸品です。

京都の差し柄、丸亀の平柄に対し、丸柄の房州うちわは一本の女竹から作られ、美しい半円で格子模様の窓が特徴です。丸型、卵型、柄長等、様々な形のうちわがあり、近年では実用品としてだけでなく装飾品としても親しまれています。

(平成15年3月指定)



### ■ 房州うちわ振興協議会

■ 南房総市役所 商工観光部 商工課  
Tel 0470-33-1092  
〒299-2492 南房総市富浦町青木 28 番地

<http://www.bosyu-uchiwa.com/>

■ 館山市役所 経済観光部 雇用商工課  
Tel 0470-22-3362  
〒294-0036 館山市館山 1564-1

# 千葉工匠具

千葉工匠具は、千葉県の鍛冶職人が伝統的な技法で製作する刃物・手道具類のことです。主な製品として、鎌、鋏、包丁、洋鋏があります。

房総半島では、江戸期を通じて開拓のために農具や工具等の開墾やまちづくりに必要な道具類の製作技法が発展しました。明治には、西洋文化の流入にともない、牧畜、繊維産業、理髪等に関連する道具の製造も盛んになりました。

伝統の技により作り出される千葉工匠具は、全国の職人や一般の利用者に愛されています。

(平成29年11月指定)



### ■ 千葉県打刃物連絡会

<https://chibakaji.jimdo.com/>

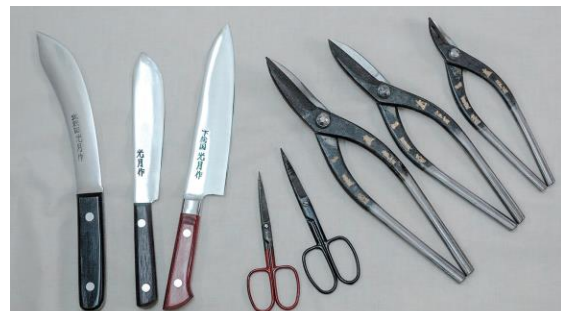
#### ■ 事務局 (株式会社五香刃物製作所内)

Tel 04-7193-0271 FAX 04-7193-0272

※電話受付：月～金曜日(祝祭日を除く)

午前8時～10時、午後1時～3時

〒277-0931 柏市藤ヶ谷369-10



## 千葉県伝統的工芸品種別・年度別指定状況

種別	昭和					平成					令和					計																											
	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5		
織物	(2)		(1)											1																									1	(3)			
染色品	1		1			1	1				1			1																		1						1			8	(10)	
紐・刺繍	(1)							(1)		(1)					(1)	(1)													1										1		3	(5)	
木工品	(3)	(2)	(1)	(2)	(4)			(1)		2				(3)			(1)		(1)	(2)		1	3		(1)		1	2	1				1			(1)			2	1	15	(22)	
竹工品	(4)	(1)	(1)	(3)	(2)			(2)				(1)		(1)																									1		2	(15)	
金工品	(5)			(2)	(1)			1	1	1			(1)	(1)	(1)			1	1		1	1		1																	10	(12)	
人形	(2)								1							(1)												1	1												4	(3)	
郷土玩具	(2)	(1)	(2)	(1)	1													1		1								1													4	(6)	
和傘		(2)																																							0	(2)	
筆	(1)	(1)																																							0	(2)	
和楽器	(2)			(2)							1	(1)	(1)			1	(1)							1													1				5	(7)	
神祇器	(1)	2	1			(1)			1			(1)																										1			5	(4)	
その他工芸品	2	2	2					1	1			1	1	1				1																								27	(26)
計	3	4	5	0	1	1	1	2	2	5	2	1	2	5	0	1	0	2	2	1	2	1	2	5	2	0	4	2	3	3	0	1	0	5	2	3	3	1	3	2		84	(117)

注：( ) 内は、製作者死亡、製作団体の解散等を外数で示した。



千葉県公式観光サイト「ちば観光ナビ」

千葉 観光



<https://maruchiba.jp/>



千葉県商工労働部観光政策課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号  
TEL. 043-223-2416  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kankou/>

令和6年発行